

◇学校の新しい生活様式における教育の在り方と児童生徒の心のケアについて

問1. 神戸議員

5月25日から分散登校による学校再開となり、6月1日より通常授業が開始されました。STAY HOME 中は家庭の中が大変だったと想像します。我が家も小学生の孫たちが集まり、持て余しているエネルギーを発散させていました。もちろん、学校から宿題がたくさん出されていたので、午前中は勉強、それが終わったらゲームの時間と決めていたようですが、なかなか守られていなかったようで、どの家庭も同様に大変だったと想像します。

さて、このように学校の臨時休校が長期化したことによる学習の遅れやコロナ太りという言葉があるように外出自粛期間中の運動不足が原因で、子どもたちの体力の低下も心配され、まさに教育の基本とも言われる「知育」「徳育」「体育」を揺るがす事態を招きかねない状況にあると言っても過言ではないと思います。そこで、おたずねします。

「道徳」の教科化が、小学校では一昨年度から、中学校では昨年度から始まっていると伺っていますが、「徳育」は授業として教えるのは難しく、どうしても勉強が優先となってしまいます。しかし、徳育は子どもたちが社会に出ていくうえで、とても重要です。例えば、今大きな話題になっている SNS での誹謗・中傷問題や、新型コロナウイルス感染症における差別や偏見など、これは心の教育である「徳育」を子どもたちにしっかり植え付けることで、周りの情報に流されないしっかりとした考えを持つ人に成長すると思います。学習の遅れは、各市町村や学校において、長期休業日の短縮や行事の見直しで、授業時間を補う工夫がされており、知育は問題ないと思いますが、このような差別や偏見をなくし、子どもたちの良好な関係を築き上げるために、どのような取り組みをするのか、お聞かせください。

## 答1. 義務教育課長

県教育委員会では、独自に「教育活動の再開に向けたガイドライン」を作成し、各小中学校に活用するよう依頼をしております。このガイドラインでは、「感染者や濃厚接触者、医療従事者等に対する差別や偏見につながるような行為は断じて許されないものである」と示すとともに、日本赤十字社が作成した啓発教材「新型コロナの3つの顔を知ろう」についても紹介しています。このガイドラインに基づき、安城市立東山中学校が、「新型コロナの3つの顔」を用いた特別授業を実践したことが、6月19日の新聞に掲載されました。

日本赤十字社の資料では、新型コロナウイルスには、「病気」、「不安や恐怖」、「差別や偏見」の感染を拡大させる3つの顔があり、「病気」の感染防止対策をするだけでなく、「不安や恐怖」の感染防止するために、「人が団結し、励まし合い、応援すること」、「差別や偏見」の感染を防止するために、「確かな情報を拡めること」や「感染拡大防止に対応している全ての人に敬意を払うこと」が大切であることが示されています。

今後も、各学校が「教育活動の再開に向けたガイドライン」を活用することで、教師がこうした点を理解し、その上で、教師が子供たちに正しく認識させることが、学校生活の中で「差別や偏見」を感染させないことにつながると考えております。また、県教育委員会では、文部科学省通知「教育活動の再開後の児童生徒に対する生徒指導上の留意事項」を、各市町村教育委員会や各学校に送付し、アンケート調査や個別面談による児童生徒の状況把握に努め、児童生徒の心の生じる差別や偏見の心を早期発見し、適切に対応するよう促しております。

## 問2. 神戸議員

次に「体育」についてお尋ねします。子どもたちは臨時休校中、一時期戸外で遊ぶことも許されませんでした。テーマパーク、レジャーランド、遊園地はもちろん全て休園となり、近くの公園でさえ新型コロナウイルス感染拡大防止のため、遊具の使用も禁止となり、ほとんど体を動かすことが出来ませんでした。子

どもたちは本来、動き回って体力を使い、お腹をすかせてたくさん食べて成長していくものであるのに、この期間有り余るエネルギーを持って余していたと思います。そのうえ、学力の遅れを最優先する授業となると、「体育」がおろそかになるのではと危惧します。それだけでなく愛知県は児童生徒の体力が全国平均より劣ると聞いていますので、子どもたちの体力が心配です。「健康な心は健康な体から」という言葉もあります。体育の授業にもしっかり力を入れてほしいと思いますが、どのような形で進めていくのかお尋ねします。

## 答 2. 保健体育課長

新型コロナウイルスに伴う臨時休業の影響で、児童生徒が運動不足の状態にあるため、健康状態を確実に把握することを前提として、先の「教育活動の再開に向けたガイドライン」では、体育の実技を実施する際の留意点として、主に3つの留意点を示しています。

1点目として、準備運動を十分に行い、熱中症対策を行うことや運動強度を抑えた軽めの運動から再開して、段階的に強度を高めるなど、安全に十分配慮することを示しています。

2点目として、十分な呼吸や熱中症予防の観点から、マスクの着用については、人との間隔を2メートル以上空け、屋内での換気も適切に実施していれば、着用は特に必要としないこととしております。

3点目として、密集する運動や近距離で組み合ったり接触したりして、安全な実施が困難な種目については、年間指導計画の中で指導の時期を変更して実施することを示しています。

教員の指導の下、これらの点に十分留意して実施すれば、声を出し合って活動することもでき、体を動かすことの楽しさを味わったり、コミュニケーションを取ったりすることも可能であると思われれます。

今後も、ガイドラインの枠組みの中で、体育授業が楽しく安全に行われ、徐々に体力の回復が図れるよう、努めてまいります。

要望:神戸

最後に要望いたします。この臨時休校中、小中学生を抱えた親御さんからの話を色々聞きました。自分の娘や嫁、幼稚園の職員もみんな子を持つ母親なので、今回の長期にわたる臨時休校は困惑していました。私も祖父母としてできる限り手伝ったつもりですが、なかなか大変で親の苦勞がよく分かりました。

新型コロナウイルスとの戦いはまだ続きます。新しい生活様式をしっかりと取り入れ、1日も早く子どもたちが学校生活を取り戻すことが出来るよう、学校や先生だけでなく、家庭や親、地域・社会で協力していかなければならないと思います。

昨日の新聞に、今、公立小学校に「静かな荒れ」が戻ってきているという記事が出ていました。アンケートは東京と埼玉なので、すぐこの地域と結びつかないかもしれませんが、そのアンケートによると、反抗的ですぐかっとなる子は減少したそうです。逆に良い子をふるまったり、禁止されたものをもってくる・給食などの片付けがうまくいかない子が増えているという数字でした。さらに問題として取り上げているのが、「問題が起きた時に原因を他人のせいにする親子」という自由記述の点です。これは明らかに道德感の欠落そのものです。親の姿勢を子どもたちが受け継いでいくことを思った時に、正しいことを教える必要を痛感します。

だからこそ「知育」だけに偏らず「徳育」「体育」にもしっかり重点を置いて、バランスの取れた人格を持った大人に成長できるよう、小中学校で教育していただくことを要望して質問を終わります。